\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_

2019/3/22改訂

2020/3/16改訂

　 6/10改訂

　　12/ 7改訂

2021/5/ 7 改訂

『日本海洋政策学会誌』執筆要領

\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_

１．原稿用紙と文字

（１）A4用紙に横書きとし、フォントは明朝体10.5ptを使用すること。カタカナは全角で

記載する。最終印刷原稿はB5版である。

（２）句読点は、和文では「、」と「。」、英文では「,」と「．」を用いる。

（３）章・節の見出しは次例のようにゴシック体で書く。

　　　英文論文では、章・節の見出しは、語頭を大文字とする。

　　　　章 (Chapter)

１．はじめに (Introduction)

２．

Ｘ．おわりに (Conclusion)

節 (Section)―節までは、タイトルを記載する。

１．１．

１．２．

　　　　：

　　　　：

２．１．

２．２．

それより下層は、１．１．（１）を用いる。タイトルの記載は不要とするが、

記載することを排除はしない。

さらにそれより下層を設けるかは、執筆者の裁量とする。

（４）数字はアラビア数字を用いる。単位は原則として、国際単位系（SI単位）を用いる。特殊分野の単位は、分野外読者が理解し得るよう略号のみの単記は避け、また、例えばkg・m-2のような表現は避け、kg/m2とする。

（５）外来語、外国の地名、人名は、原語によらない場合にはカタカナとし、動植物等で学名を記載する場合は、イタリック体で原語表記とする。

（６）ローマ字とまぎれ易いギリシャ文字にはギ（朱書）の記号で指定する。

（７）本文中の注については論文文末、参考文献の前に置く。

２．原稿執筆

（１）原稿種別は、論文、研究ノート、報告、解説、展望、その他とする。

（２）表題は内容を反映した簡明なものとする。

（３）和文には、原則として500字以内の和文要旨をつけ、300語（words）以内の英文要旨（Abstract)をつける。

（４）英文には、原則として300語（words）以内の英文要旨(Abstract)をつけ、500字以内の和文要旨をつける。

（５）原稿には、5語程度の和文キーワードおよびそれに対応する英文キーワードをつける。

キーワードは要旨の後に記載する。キーワード（英語）は、各語頭を大文字にすること。

（６）応募時に、論文本文と、要旨およびキーワードを、一つのファイルとして統合して提出する。

３．図表

（１）図（写真を含む）、表は、原稿を通しての通し番号（図１、表１）をつけるか、あるいは、章毎の通し番号（図1.1、表1.1）をつける。

（２）図表は本文中に挿入するとともに、別途ファイルにて添付すること。

（３）和文原稿であっても、Table, Fig.等を用い、図表の表題、説明に英文を用いてもよい。

（４）表の表題は表の上に、注を要する場合には表下に記載する。

（５）図の説明は図の下に、注を要する場合には注と明記して図下に記載する。

（６）図表を転載する場合は、転載許可手続きを行った上、出典を明記する。

４．数式

（１）数式には順次番号をコラムの右端に寄せて付ける；(1)等

（２）数式に用いる記号は全て本文中において定義し、如何なる記号かを明示する。

５．引用文献

（１）引用の範囲は、必要かつ十分であるように配慮する。

（２）本文中の引用は次の例にならい、著者の姓（特定できない場合は名を併記）、発表年、必要があれば引用ページを書く。

[複数著者]

田中・高橋(1996)によれば、・・・との結論を導いた(James and Brown, 1998)。

前報（渡辺他, 2001)において、White et al.(2003)は、・・・・

[複数文献]

・・・との説が多い（高橋, 1998; 田中, 2003; 渡辺他, 2004)。

[同一著者複数文献]

岡田(1999, 2001)および鈴木他(2005a, 2005b)は・・・

（３）本文末尾に「参考文献」を記載する場合には、和文原稿は著者姓の五十音順、英文原稿は著者姓のアルファベット順に並べる。同一著者では年号順、同一年号では、a, b, c・・・を付す。

（４）「参考文献」において、引用雑誌については、下記にならって記載する。

著者名, 西暦年号：表題, 雑誌名, 巻, 号, 引用ページ（例えば；201- 223）。

（５）「参考文献」において、引用単行本については、下記にならって記載する。

著者名, 西暦年号：表題, 単行本名, 発行地, 発行所, 引用ページ。

（６）引用雑誌名を略記する場合には、他の専門分野の読者に理解できるように配慮する。勝手な省略は避ける。

（７）英文引用の場合、雑誌名、報告書名などは斜体文字とする。

（８）URLについては、最終閲覧日を記載する。すべてのURLについての、一括記載も可とする。URLのみを引用する場合は注として記載する。

（９）引用の方法につき不明な点は、*The Chicago Manual of Style, 16th ed.,*

University of Chicago Press, 2010 を適宜参照のこと。

（凡例）

林　司宣（2008）：現代海洋法の生成と課題, 東京, 信山社出版, pp.333-355.

山崎哲生（2006）：鉱物・エネルギー資源, 海洋政策研究財団（編）海洋白書2006, 東京, 成山堂, pp.21-28．

Field JC and Francis RC (2006): Considering ecosystem-based fisheries management in the California Current. *Marine Policy* 30, pp.552-569.

Norwegian Ministry of Fisheries (2008): *Marine stocks: Minke whale.* Available at: <http://www.fisheries.no/marine_stocks/mammals> (last accessed \*\*\*).

注の冒頭に、「本稿に引用するよびURLは、すべて、＊＊＊に最終閲覧した。」という一括記載も可。

６．注

　 注は、当該箇所に上付数字１、２等を付し、論文末尾(参考文献の前)におく。

（凡例）　１　後述するように、いくつかの県では海域管理条例を制定しており、全く存在しないわけではない。

なお、引用文献を本文中に記した上で参考文献一覧を末尾に付すハーバード方式（前掲５.（２）〜（５））に代えて、各引用文献を注に記載する方式を採っても良い。その場合には参考文献一覧は省略できる。

７．字数について

論文・報告・解説は 24,000 字以内、英語原稿の場合は、10,000 ワード以内（印刷時 B5版 1,200 字/頁×20 頁以内）。

研究ノート・展望・その他は 18,000 字以内、英語原稿の場合は、7,500 ワード以内（印刷時 B5 版 1,200 字/頁×15 頁以内）。

ただし、参考文献、注も字数に含むので注意ください。

図表は字数の制限には含まれない。編集委員会が、編集過程で、投稿者と相談することはある。

以上